

R2.5月

校長 田之上 典昭

### 「ことば探しの旅」

令和2年4月16日午前8時9分、私の高校時代の恩師である K 先生が急逝されたとの報がありました。

先生からは、明桜館高校に赴任した4月1日朝、学校に着いてすぐ激励の電話をいただき、それが別れのことばとなってしまいました。

私は小学5年からスポーツ少年団で剣道を始めました。しかし、高校入学時には部活動を続けようかとの迷いがあり、入学後しばらくはふらふらとしていました。その時に K 先生からの声かけや同級生の誘いがあり、やっと入部した剣道部でした。中学時の延長のような気持ちでの入部でありましたが、K 先生が赴任して3年がたった剣道部は、先輩方がインターハイ出場や九州大会に出場するほどになっていました。

先生の指導法は、今思い返すと「生徒に工夫する力をつけさせる」ものであったように思います。

私は、明桜館に赴任して最初の職員会議で先生方へお願いしたことがあります。それは、「生徒は十人十色様々な個性を持った生徒がいると思うが、わかりやすい優しい『ことば』を探して、それぞれの先生方の『ことば』でもって生徒を指導して欲しい。」ということでした。私たち教員は、いかに優しい表現で、いかに的を射た指導ができるか、それを追究することが大事であるということ、K 先生からの指導法からも感じていたからです。

今、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、臨時休業が続いていますが、臨時休業前の LHR において、各クラスで先生方が一所懸命に生徒に向かって自分のことばで指導されるのを聞きながら、感謝の気持ちで一杯になりました。生徒たちは、先生方の「ことば」を通じて、必ずこの逆境を乗り越えてくれるものと信じます。

令和2年度全国高等学校総合体育大会（インターハイ）の中止が決定しました。他にも多くの高校生の力を試す機会が失われつつあります。

こんな時だからこそ創造力を働かせて、今何ができるか、何をしなければならぬか、「生徒が工夫する力をつけられる」ようないいことばを探して伝えていけるよう力を注ぎたいと思います。